

後悔のない選択をするために

李嘉睿

人生は、無限の選択の中で進み続け、進歩し続けること

(1) 最初の選択

最初私は、海南大学からの留学生の一人として亜細亜友之会外語学院に来ました。しかも、私は亜細亜友之会外語学院に海南大学から初めて留学プロジェクトを通じて来た学生でもあります。私は日本に留学するか迷っていたときに、たくさんのことを考えていました。海南大学での学生生活の貴重な4年間のうちの1年を使い、日本で勉強する価値はあるのかどうかです。やはり、他の学生と同様に、中国国内の大学に卒業するまで留まり、その後、仕事をして平々凡々に過ごすべきかどうかも考えました。最終的に、私は日本に留学することを選択しました。選択の理由としては、日本に行き遊びたいということではなく、この一年の日本での経験が私にとって、必ず一生のうちで、忘れられない素晴らしい経験になると思ったからです。

今回の留学は私にとって本当に素晴らしい留学となりました。この選択は大正解でした。日本語をただ勉強できただけでなく、海南大学の4年間では学ぶことができない多くの経験ができました。まず、自分でご飯を作って食べることを学びました。正直、留学する前は、料理が全くできませんでした。日本での外食は値段が高く、自分で料理をしないと生活のやりくりが上手くいかなくなってしまいます。もう一つが仕事をした経験です。中国国内では少し仕事をしたことがあるにもかかわらず、得た経験は何もなかったです。日本に来てから、勉強と同時に働き始め、仕事を通じて組織に属するという帰属意識について学びました。たった1年間の期間だったにもかかわらず、私は仕事している職場で、同僚に褒められるなどの経験を通して、帰属意識を感じ、職場での大事な一員となりました。

留学生活は皆さんが想像しているように、キラキラと光り輝く美談ばかりではありません。海外の文化を享受し、海外の食を体験し、外国人と積極的にコミュニケーションすることなどを想像するかもしれません。本物の留学生とは、苦労を経験しながら前に突き進む人たちのことです。日本にいる中国人留学生は、中国国内の学生がまだ寝ている時間に起床し、仕事に行き、勉強をしています。中国国内の学生が授業後にどこで遊ぶかを考えているときに、日本にいる中国人留学生は、これからどう生活していこうかを真剣に悩んでいます。さらに、学んだ言語を実生活に役立て、自分の存在価値を高めるかを日々考え、日常生活の中で毎日格闘しています。これが本来の私たち「留学生」の姿です。

(2) 2回目の選択

一年の留学生活はあっという間に過ぎ去っていきました。この一年間で学んだことは本当に多くあり、中国に帰国するのはとても名残惜しい気持ちになりました。中国に戻り、私は中国国内の学生との交流の中で、大学院入試に向けて努力している学生や職探しをしている学生がたくさんいることを知りました。しかし、自分は卒業後の進路・計画について、一切何も考えていないことに気づきました。そして、私はもう一度日本に戻ることを考えました。野左近校長先生や石川先生とのやりとりを通して、やはり私は日本にもう一度行くべきだと思うようになりました。私にとって、中国の大学を卒業した後、他の学生と同じように中国国内で就職し生活していく人生は合わないと思いました。そして、再び日本で学びたいという気持ち、そして、自分の未来を新たに切り拓こうという気持ちがどんどん強くなっていきました。

(3) 大学院に向けて

日本に戻り、私はすぐに大学院の情報収集に着手しました。夏休みのあとでは、私はほぼ毎日大澤先生と相談し、どの学校を選択し、どう研究計画書を書くのかを語り合いました。初めは、薬理学を修士論文として執筆する方向で学校を探していました。しかし、学校はたくさんあるにもかかわらず、募集要項を確認すると、私が進学できそうな条件に合う学校が見つかりませんでした。そのとき、私はこの日本留学という選択が間違いではなかったのかと考えるようになりました。そして、石川先生に相談したのちに、あまりにも諦めが早い自分に気づき、心の整理が必要だと感じました。それからは、私はすぐに心を整え、修士論文での新しい研究テーマの模索に努めました。そして、私の学部時代の専攻であるバイオテクノロジーに類似しているテーマである遺伝子工学の研究を探し出しました。日本に来る前は、私は国立大学大学院の志望でした。そのあと、私は色々調べ、国立北陸先端科学技術大学院大学の塚原研究室で修士論文を執筆することを決心し、この大学院を目指すことにしました。

研究計画書を書き、そして、自分の経歴を載せた履歴書を塚原先生に送付しました。当時、私が送付した書類を先生が見て下さるか不安で仕方がなかったです。幸運にも、先生は私の履歴書や研究計画書を見て下さったあと、研究計画書で欠如している部分を指摘して下さいました。さらに、オープンキャンパスで会って下さることも約束してくれました。先生に会い、自分の家に戻ったあと、すぐに研究計画書の修正に着手しました。出願期間に間に合うように書類を提出し、最終的には、野左近校長先生、石川先生や大澤先生の期待に背くことなく、無事大学院試験に合格することができました。最後に、文章という場を借りて、亜細亜友之会外語学院で勤務するすべての先生にお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました！私が日本の留学先語学学校として、亜細亜友之会外語学院を選択したことを非常に幸運なことだと思います。